

令和 6（2024）年度海外研修参加者 英語力伸長度調査・報告書

（データ提供：IR センター 文責：海外研修担当副学長 西村直樹）

はじめに

本学国際教養学部では、カリキュラムの一環として、原則 2 年生全員が 2 年次後期に海外研修（留学）に参加します。研修先大学は、英語圏 5 か国（アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）に計 15 大学あり（令和 6 年度現在）、学生は各大学の ESL プログラムに所属し、フルタイムの学生として、英語力に応じたクラスで授業を受けます。また、1 学期間を通して、自由研究論文を含むポートフォリオ（15,000 ワード以上で構成される課題集）の作成が課されます。

海外研修の主たる目的は以下の 5 点です。

- 1) 異なる言語・文化・価値観を理解する能力（異文化理解力）の育成
- 2) 異文化を持つ人々と建設的かつ協調的な人間関係を構築するコミュニケーション能力の育成
- 3) それらの能力を基盤として課題を発見する力（課題発見力）の育成
- 4) 自らの結論を導き出すクリティカル・シンキング力の育成
- 5) 実践的英語運用能力の育成

本報告書では、特に「5）実践的英語運用能力の育成」に焦点を当て、2024（令和 6）年度海外研修参加者を対象として、TOEIC Listening & Reading Test の得点を指標にその伸長度を検証しました。

1. 分析対象データ

海外研修（留学）期間	2024 年 8 月から 12 月（1 学期間（4 ヶ月強））			
海外研修（渡航）した学生数	23 人（国際教養学部 2 年生）			
TOEIC の成績の平均点	入学時	留学前	留学後	留学前後の伸び
Listening	220 点	295 点	354 点	+59 点
Reading	142 点	199 点	249 点	+50 点
Total	361 点	494 点	603 点	+109 点
最高点	535 点	660 点	770 点	-
最低点	240 点	320 点	385 点	-

注1) 入学時の成績は、海外研修に参加した 23 人を対象としている。

注2) 留学前の成績は、留学前に受験した TOEIC 試験の最高点を用いている。

注3) 留学後の成績は、留学後に受験した TOEIC 試験の最高点を用いている。

2. 留学前後の TOEIC スコアの変化

以下図 1 (Figure 1) に、留学前・留学後の TOEIC の得点変化を Listening (495 点満点)、Reading (495 点満点)、Total (990 点満点)ごとに示します。

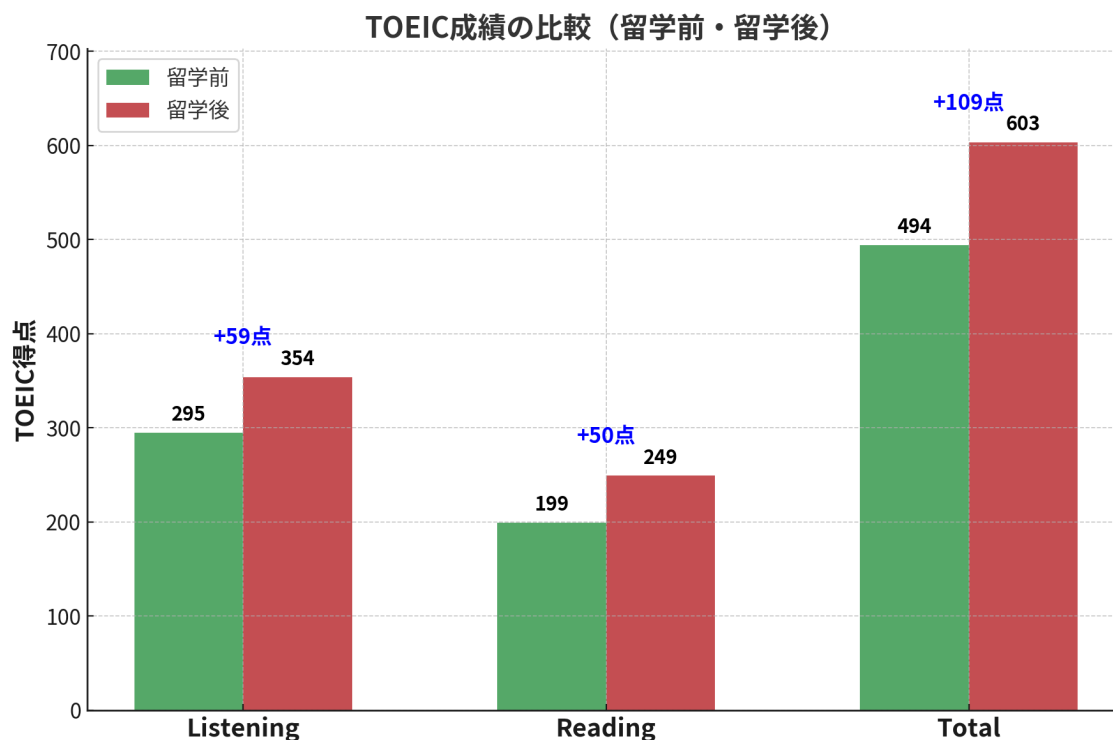


Figure 1. Changes in TOEIC Scores (Before and After Study Abroad)

Listening の平均点は 295 点から 354 点へと 59 点伸び、Reading の平均点は 199 点から 249 点へと 50 点伸びました。その結果、総合得点平均点は 494 点から 603 点へと 109 点増加しており、顕著な成果が確認されました。総合平均で 100 点以上の伸長は、1 学期間（4 ヶ月強）の留学が学生の学習意欲を高め、英語力の実質的な向上につながっていることを示しています。

Reading の伸びは Listening に比べやや小さいものの（Listening: +59 点、Reading: +50 点）、差は大きくありません。例年は Listening の伸びが Reading を上回る傾向がありますが、今回の参加学生についてはバランスのとれた伸びが確認されました。ただし、Reading は入学時から Listening より低い傾向にあるため、総合的な英語力の向上には、英文構造（文法）や語彙・表現力の習得に関わる自発的・能動的な学習の継続が不可欠であり、単なる海外滞在のみでは十分な伸長は得られないことも示されています。

3. 海外研修前後 TOEIC（総点、Reading、Listening）の成績分布

以下に留学前後の Reading と Listening の合計得点の得点分布（Figure 2）及び Reading と Listening、それぞれの得点分布（Figure 3）を示します。

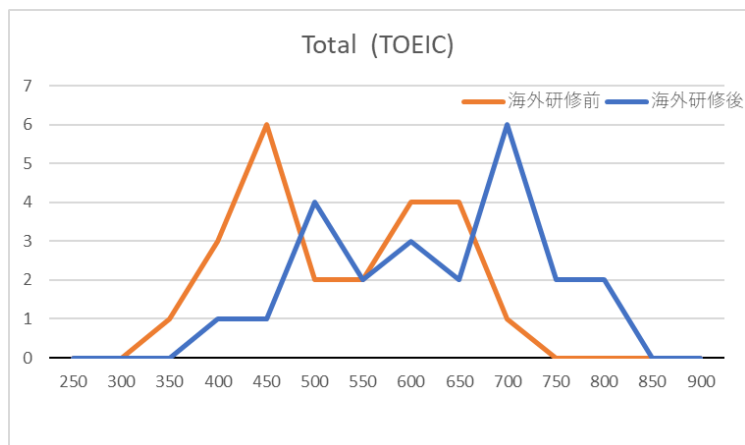


Figure 2. Distribution of TOEIC Total Scores

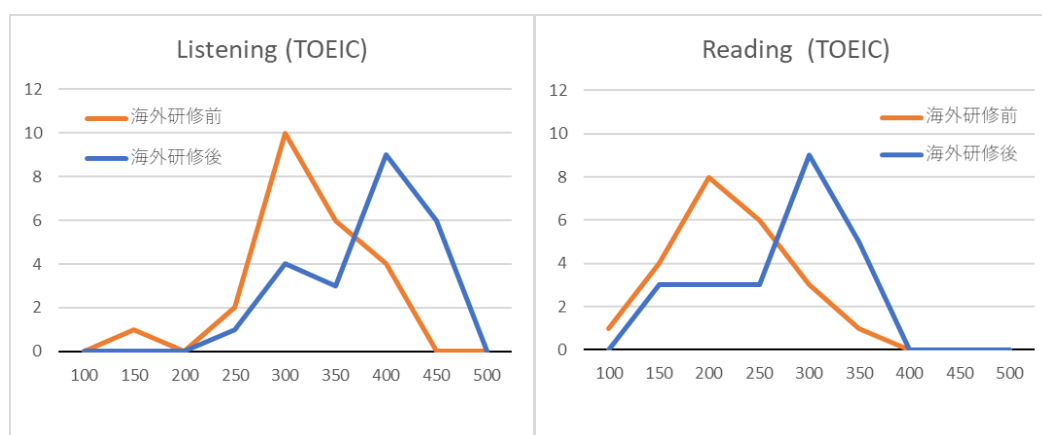


Figure 3. Distribution of TOEIC Listening and Reading Scores

Listening は、留学後に全体として高得点側にシフトし、5 人を除き全員が 300 点を超えました。一方で Reading は一律の伸長ではなく、留学後でも 250 点未満の学生が 9 人（40%）いました。Listening の伸びは、海外での生活により英語を聞く時間が日本での学習時と比べ圧倒的に増加したこと、さらに多くの学生がホームステイを経験し、授業だけでなく生活の場においても常に英語を使用せざるを得ない環境に置かれたことに起因すると考えられます。また、日常的に実践的なコミュニケーションを重ねることで、相手の発話に集中する習慣が身についたことも一因と推測されます。ただし、文法力や語彙力といった基礎的な英語力が十分でなかった学生については、音声聞き取る力が向上しても、それを理解・分析する力が不足していたため、大幅な得点伸長は見られませんでした。

4. TOEIC 成績の推移と伸び率（入学時・留学前・留学後）

図 4（Figure 4）に、入学時から留学前・留学後に至るまでの TOEIC スコアの推移と伸び率を示します。

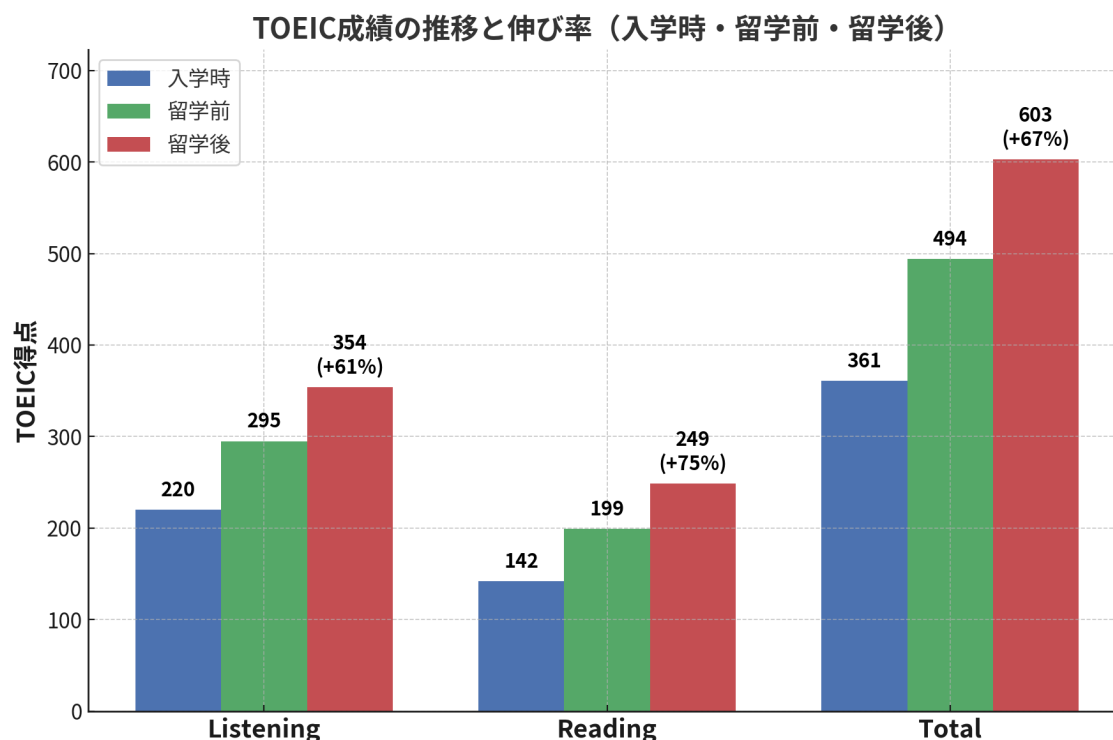


Figure 4. Changes in TOEIC Scores (At Admission, Before Study Abroad, After Study Abroad)

入学時 361 点だった総合平均点は、留学後 603 点となり、242 点の増加（約 67% の伸び）が確認されました。内訳は Listening が約 61%（+134 点）、Reading が約 75%（+107 点）の伸びであり、とりわけ Reading の伸長が顕著でした。入学時における Reading 力の低さが伸び率に反映されたものと考えられますが、例年 Reading の伸びは Listening を下回る傾向があるため、今回の結果は特筆に値します。総じてバランスの取れた伸びを示しており、学生の今後の学修にも好ましい傾向であると評価できます。

おわりに

本報告書では、2024（令和 6）年度海外研修参加者の「実践的英語運用能力」の伸長度を、TOEIC スコアを指標に検証しました。その結果、海外研修プログラムが英語力向上に一定の効果の有することが確認されました。一方で、海外研修の目的として掲げた 1) から 4)

の能力向上を測定する客観的な指標の策定、ならびに研修中における学生の自律的学習を促す指導方法や教材の開発は、引き続き取り組むべき課題です。今後もこれらを検討しつつ、海外研修プログラムの効果を最大限に引き出すための改善を継続してまいります。